

第5回長野市総合計画審議会作業部会 会議録（要旨）

日時 平成17年12月22日（木）午後1時30分から

場所 第二庁舎10階 会議室19

（久保田部会長、堀内部会員欠席）

議事（1）基本構想施策の大綱骨子案（福祉部会関係）について

副部会長

ページごとに議論し、後ほど全体を通して議論したい。まず6ページについて、特に施策の視点の2つ目で3つの案が示されているが、どれが一番よいかご意見をいただきたい。

部会員

思いやりとかやさしさという言葉は、ここ20年来こういった計画などで使われてきたが、その反省として単なる思いやりというだけで、一人ひとりが、安心して自立した生活が営めるまちづくりができるのだろうか、という議論があり、より具体的にお互いが助け合って、お互いが支え合ってという意味合いを含めて、言葉は硬いが「互助の精神に満ちた」としたところである。「やさしい」という言葉も手垢にまみれていていやな感じがする。できれば「互助の精神に満ちた共生社会の形成」でもいいと思う。

部会員

案のなかで、1案がよいと思う。世代構成が大きくどんどん変わってきて、高齢者が増えてきて、今までの意識の高齢者とは全然違うタイプであり、子どもは子ども、大人は大人、年寄り年寄りではなく、世代間の交流の意味合いがでてきて、これからの時代には適切な表現なのではと思う。

副部会長

やさしいという言葉についていかがか。

部会員

1案の交流ということが、現在異世代間の断絶だとか、疎遠になってきている状況の中で、交流ということが一つのキーワードになるというお話ですが、「安心して自立した暮らしを営めるようなまち」を考えたときに、単にふれあうとかでは、地域課題を解決することにはならないのではないかと思いますがいかがか。

部会員

3案に賛成です。「共生社会」という言葉の中に、十分交流という意味が含まれているのではと思う。「やさしい」という言葉は、ありきたりであるが、あると温かいと思う。また、前文の「人間関係の希薄化が進行している」という表現は、あまり好きではなく、「心配される」とか「危ぶまれている」とかの表現の方がよいのではないか。本当に進行しているのかどうか、少しきつい感じがする。

案としては3案に賛成で、前文の1行目に少し違和感を感じている。

部会員

3案の「やさしい」という部分を、「活力ある」にしてはどうか。互助の精神とか共生社会という言葉は、何か静止的な静的なものを感じる。ダイナミックにいろんな世代が交流したり、障害のある者もない者もという意味で、「活力ある」という言葉はどうか。

部会員

やさしいは、漠然としたイメージになってしまい、まちづくりの方向性としては、具体的なものが湧いてこないと思うので、逆に取ってしまってもよいのではと思う。案としては、互助という言葉が、具体的イメージに近いので3案がよいと思う。

副部長

構想の骨子、タイトルですから、あまり細かなものは、基本計画に反映することになるかと思うが。

部会員

互助の精神がいいと思う。やさしいという言葉については、あった方がよいのか分からないが、「活力ある」というのは良いかもしれない。

部会員

3案がいいと思う。やさしさについては、入れてよいか自分もはっきりしてない。「人間関係の希薄化」の部分は、子どもを見ている職場にいと、そういうことがあるのではと感じられるが、このように書かれることはどうかと思う。

副部長

事務局はどうか。

事務局

資料17ページ教育関係のまちづくりの方向性でも、「地域コミュニティの重要性が高まる中において」とあるが、当初「希薄化」だったが、教育部会でご意見をいただき、このようになっている。捉え方だが、ご議論いただき修正したい。

副部長

皆様のご意見では、3案が多いと感じる。そこで、「やさしい」を「活力ある」としてはという意見もあったが、3案でよいか。

部会員

もっとアクティブな感じを出したいとのことだが。

部会員

やさしいよりもダイナミックな感じを出したい。やさしいというと少し抵抗がある。

部会員

2案もよいが、一人ひとりがなかなか輝けないから施策が必要となってきている。そこで、イメージとしてどういう関係があるのかと考えると2案は、美しく流れ過ぎてい

るような気がする。

副部長

やさしいを「活力ある」とし、3案で進めていきたいと思うが、いかがか。

(了承)

それでは、現時点ではそういうことで、また全体として考えていく中でご意見がありましたらお願いします。

続きまして、タイトルについては後で触れるとして、7ページの中身についてはどうか。

部会員

基本計画へ向けた要素の網掛けの部分で、病後児(病児)保育所の整備で「病後児」という言葉はあるのか。よく言われるハンディーキャップパーソンのことを言っているのか。

部会員

子育ての問題で出てくるが、託児で一番困るのは、病氣中とか病氣が治った後に子どもを預かってくれる場所が無いということ。

病氣をしている子どもを抱え、でもお母さんは仕事に行かなければならない。そういう時にそれを支えるシステムや施設が必要ということです。

副部長

7ページについては、網掛けの部分でよいか。

(了承)

次に8ページの関係について、いかがか。

ここで、案ということで示されているがどうか。

部会員

上の「高齢者の社会参加の促進による生きがいと健康づくりの推進」については、高齢者をじゅっぱひとからげ(十把一絡げ)にした概念だと思う。60歳以上を皆ひとからげにして高齢者と捉えるのは時代的に違うのではないか。庇護の対象としてのイメージがあまりにも強い感じがする。もちろん、高齢期になってハンディーキャップへの支援は必要だが、健康で長寿の人もいっぱいいる。その人達が、少子高齢化の時代に自分の生きがいづくりや健康づくりだけにとどまっていっているのか。やはり地域社会の中で積極的に役割を果たしていかなければ、これからの地域社会は成り立っていないのではないかと考えた時、健康で働く意欲のある高齢者に対して、例えば積極的に就業支援をすとか、地域の中で働く場を確保するという施策が必要ではないか。そういうことで、市民としての役割を積極的に果たすことを示した方が、これからの総合計画には合っていると考える。

部会員

高齢者は、案の市民としての社会的役割は意識しているが、端に寄せられるというよ

うな気持ちが強かったので、積極的に果せる環境づくりは大いに賛成である。

部会員

案を読んだときに、案のことができなくなったら端に行くしかないような気がした。考え方はすばらしいが、認知症を持ったり、障害を持ったときにも端に寄せられることがなくやっていければいいのにと感じる。私も高齢者をひと括りにし過ぎていたかなと思った。介護が必要になっても、人として認められるような感じができればいいと思う。

部会員

「それぞれの能力・意欲に応じて」という言葉は、少しきついなと思う。能力のあるなしをどういうことで判断されるのか。私がどこを向いているのかによっても違ってくると思うし、あまりにもはっきり書きすぎているのではという感じがする。説明をされれば分かるが、文面だけ見たときに、捉え方が多種多様だと思う。

部会員

言われるともっともだが、どこを見ているかによると思う。自立生活がしたくてもできないお年寄りに視点を置くと、その辺をしっかりと入れたいと思う。私の周りの元気でしかも生きがいを無くしてしまったお年寄りで、何をしたらいいかわからないとか、この人だったらこういうもできるのに、もったいないと思う人達があまりにも多い。その人達が、年を取ってお迎えを待つだけではなくて、自分達が置かれている環境の中で、積極的に生きていけるような支援が必要である。介護が必要な手当は絶対必要だが、その一方で健康長寿の人もいるので、生きがいのある豊かな高齢社会を実現するのであれば、そういう手立ても必要ではないか。怖いという議論の中で強制される、まだ働かさせるというふうにとられると良くない。

部会員

「能力・意欲」を「持てる力が十分発揮できる社会」とか「持てる力」というようにしたらどうか。

部会員

「それぞれの持てる力に応じて」とすると強制的にならないか。

部会員

「能力・意欲」は、確かに強いと思う。前の原案だとぼやけていて、高齢者にとって案だとやっていけるのかなと思うが、「能力・意欲」と言われると、困ってしまう。

副部長

それでは、「それぞれの持てる力に応じて」ということで、事務局でニュアンスを考慮して表現を整理していただきたい。では、案の方でよいか。

(了承)

その他に、箇条書き2点目に「総合的な」という言葉が入った。また、基本計画に向けた要素にある30地区の関係について、他へ持っていったということで、8ページに

ついてはよいか。

(了承)

9ページへ進みたい。ここには、先ほどの30地区のことが地域福祉社会の構築ということで入っているが。

部会員

地域福祉計画の中では、30地区ごとに地域福祉ワーカーを配置して、住民自らが地域の課題を掘り起こして、自分達が自分らしく生きられる地域社会を創るということがあり、高齢社会の推進中にワーカーを入れるのはどうかなと思った。地域福祉計画の位置付けにもよると思うが、地域福祉計画そのものについては、高齢者の分野、子ども、障害者、災害、生涯学習などあらゆる分野を総合して、網羅して地域福祉を推進しようということであり、そう考えたときに、こういう一つの項目の中に入れ込むというのではなく、少し違った上位の概念のような総合的な視点から、地域福祉を位置付けることが必要ではないかということで提案した。確かに最初の「まちづくりの方向性」の中に入れるのは無理があると思う。では3番の「やさしさと交流による自立社会の推進」に、ここは主に障害者の問題が扱われているが、その中に地域福祉計画の中に謳われている地域福祉ワーカーを位置付けるというのは少し違うのではないかと感じる。高齢社会に位置付けたものを、ただ3番に移しただけではないか、という感じがする。「まちづくりの方向性」に入れるのがそぐわないとするならば、資料5の2番の基本計画に向けた要素の1点目ならば、落ち着くのかなと思う。いずれにしても、9ページの一番下にいれることには、抵抗を感じた。

事務局

高齢社会の2番ではないと思う。ご意見のとおり資料5の考え方もあるが、保健・福祉の分野の中タイトルとして、「地域福祉の推進」を立てることも考えた。しかし、地域福祉の推進は、保健・福祉分野だけではなく、生涯学習や地域防災も担うことを考えれば、「地域福祉ワーカー」と「福祉」がついているが、「地域ワーカー」と言ってもよいのではというイメージがある中、現計画の中では、2点目の「だれもが地域で自立し、安心した生活が営める環境と支援体制の充実」と「だれもが」とあるが、この後の施策の展開を考えた場合、中国帰国者の問題や生活保護の問題などワークショップでは出てこないが、市が進めなければならない問題があるので「だれもが」としたところである。そこで、あえて言えばここではないかと提案させていただいた。この問題は大きな問題なので、今後全体の中で、審議会などで議論していただくことも一つの方法ではないかと思う。

部会員

審議会の中で議論しても良い問題だと思う。

副部長

この件については、そのようにして、今日のところは次へ進みたい。ほかにどうか。

部会員

交流教育という言葉があるが、障害のある人とない人が交流することを言うのだが、インクルーシブ教育を提案させていただいたが、これは包含する、包み込むということで、分けるのではなくて、最初から同じ社会の一員として考え、それからどのように対応していくかを考える対応の仕方だが、交流といわれてしまうと別の人間同士という感じがしてしまう。

部会員

自立社会とは何か。一人ひとりが自立して生きられる社会という意味だろうと思うが、自立社会とくくられてしまうといいのかなと感じる。言葉を全面的に替えてしまったらどうかと思う。二つ考えたが、「だれもが自分らしく生きられる環境づくり」と「自らの生き方を自分らしく実現できる社会づくり」というふうに案として考えてみた。それと中タイトルの「推進」にも疑問を持った。その下の箇条書きでも「推進」とあるが、1番からすべての中タイトルに関係するが、1番は「環境づくり」で切って、2番目は「高齢社会づくり」として、3番目も何とか「づくり」として、箇条書きの中で「…推進」としていったらどうかと思う。

副部長

「だれもが」というのは、気になる。違う言葉はないか。

部会員

最近、障害者自立支援法ができたが、自立とは何ぞやというのが曖昧になっていて、障害者自身が自立とは何かを考えたとき、自分らしく生きることが自立であるという表現を最近使うようになった。ですから、自分らしく生きられる社会という中には、原文にある自立社会というのが入るという気がするので、提案の前段については大賛成である。後段については、皆様のご意見を。

副部長

「だれもが」を除いて、「自分らしく生きられる社会づくり」か。

部会員

「自分らしく」というのが入ればいいなと思っており、後段の「自らの生き方を自分らしく実現できる社会づくり」がいいと思うが、少しくついなという印象も受けるので、「自分らしく生きられる」くらいがよいのでは。

部会員

前段の方がよいが、「だれもが」はいらないのではないか。また「自分らしく生きる社会」という能動的な方がよいのでは。

部会員

「生きられる」とは、生きることが可能な社会とういう意味である。

副部長

これまでの話で、中タイトルの推進を抜いたご意見について、事務局はどうか。

事務局

福祉部会として、現時点で決めていただいて構わないが、全体の中の構成として今のところ他の分野は、「…形成」「…推進」と使っているの、これから素案を作っていく中で、他の部会も見えてくるので、一旦「づくり」として、また他分野との関係を踏まえ、素案づくりで検討していただきたい。

副部長

この3番については、ご意見をまとめて、「だれもが」はどうか。

部会員

「だれもが」は無くてもよいのではと思う。「自分らしく生きられる社会」でいいと思う。

部会員

「だれもが」は無くても良いかもしれない。

部会員

無くてもいいが、自己選択自己決定ができる人、できない人がいるので、自分らしく自己選択自己決定できない人も、「その人らしく生きられる社会」が欲しいなど考えるが、無くてもそういうことを含むかもしれない。

部会員

ここでは、自分らしく生きられない人について取り上げているので、私は、「だれもが」があった方が良くと思う。

副部長

この場合は、「だれもが」でまとめたいと思います。

10ページについてはいかがか。リハビリテーションの関係のご提案は、どなたか。基本計画に向けた要素に入ったがよいか。

部会員

結構です。

副部長

では10ページについては、よろしいか。

(了承)

では進みます。11ページはいかがか。

部会員

先ほどの「だれもが」の話で、箇条書きのところでも「だれもが」がつくので、しつこい気がするが。

部会員

そう思う。

副部長

では、「だれもが」を無くしたタイトルとしていくことでよいか。

(了承)

11ページいかがか。

部会員

基本計画に向けた要素の中で、下から2行目の「女性の職域拡大を、……」の部分で、議論していただきたいが、男女共同参画の視点から見たときに、今の社会は男性優位の社会であり、そういう意味で女性の職域拡大はよく分かるが、男性の保育司や看護師も増えてきていることを考えると、男性女性の性別による職業分担を越えて相互の職域拡大の視点も必要なのではないかと思う。男女共同参画などの計画では、女性の職域拡大が書いてあるが、それだけでよいのかという疑問を感じた。

事務局

全体を通じて、この基本計画に向けた要素の括弧書きの部分は、精査してというよりも、構想を導き出すために、ワークショップでのご意見をそのまま取り上げたところであり、これから議論していただくことになろうかと思う。ご覧のとおり他の分野では、括弧書きはない。これは福祉部会のみ関連が分かるように事務局で表示したものである。従って基本計画の議論の中で、ゼロからとは申し上げないが、もう一度議論したいと考えている。

部会員

それにしても、この中に書かれているのは女性の視点であるが、男性女性相互の職域の拡大、役割にこだわらない考え方が入ってくれば、新しい基本計画になると思う。

副部長

その辺は、また考えていきたいと思う。

11ページその他にどうか。

(なし)

それでは、最後に事務局から話があった、「安心」と大タイトルについていかがか。

部会員

「健康福祉のまち」というのが、言われてみれば少し問題があるかもしれない。もう少しアクティブな、これから長野のまちをこうしていくんだという表現が欲しい。

部会員

確かに「健康」と「福祉」は並ぶ言葉ではない。概念が少し違う。

副部長

事務局は、何かあるのか。

事務局

「認め合い支え合う」という言葉で、人権及び地域福祉の意味合いを出した。その時に健康の分野で何か欲しいと考えた。「認め合い支え合いながら健康で暮らせる福祉のまち」とも考えたが、大タイトルなので少し長いかなと思った。大タイトルは大きな問題なので、本日も意見が無ければ素案の段階でも結構ですし、基本計画の議論の段階で

も、こちらの方がよいのではと出てくることもあろうかと思う。本日は最終決定ではないのでお願いします。

副部会長

審議会までとは言わないが、宿題ということで皆さんに考えていただき、また事務局の方へ出していただければと思う。

「安心して」はどうか。

事務局

これも事務局で「安心して医療を受けられる」などこれに代わるものが浮かばず、「安らかに」などと考えたが、イメージが違うと思う。もし「安心して」が重なっても理由があってこれが良いのであれば、仕方ないというのが正直なところである。ただし、体系図になると、「安心」がダブルのが気になり問題提起した。

副部会長

これも宿題ということで考えていただきたいと思う。

事務局

ここで、審議会へ上げる事項を確認させていただくが、また素案の段階で議論していただきたいと思う。

骨子案の6ページは、「人間関係の希薄化が危ぶまれている家庭や地域社会」と修正。

施策の視点の2番目は、3案で「互助の精神に満ちた活力ある共生社会の形成」とする。

7ページについては、中タイトルは「の推進」は、全体の中でまた議論することとして一旦除き、「…環境づくり」とする。

8ページについては、同様に中タイトル「…高齢社会づくり」とする。また、3番目の箇条書きについては「高齢者が自らの生きがいづくり・健康づくりをするとともに、それぞれの持てる力に応じて市民としての社会的役割を積極的に果せる環境づくりの推進」とする。

9ページの中タイトルを「自分らしく生きられる社会づくり」とする。また、基本計画に向けた要素の一番下の「地域福祉社会の構築」については、一旦このとおりとして、今後議論していくこととする。

10ページの中タイトルを「…生涯健康づくり」とする。

11ページの中タイトルは、このまま「…形成」のままとする。

以上確認した。

副部会長

それでは、議事の2番へ進みます。

議事(2) 行財政関係の骨子案について

副部会長

福祉部会からも意見が出ているがいかがか。

部会員

意見の5番と6番について意見を出した。民営化、管理委託、指定管理者が進んでいるが、これから大事なものは、本当に市民の立場に立ったサービスが行なわれているのかである。市民の満足度を高めていく行政経営は、誰がどうチェックして満足しているのか検証することがとても大事である。事業報告や市民アンケートでチェックを行なうとともに説明されたが、市民も入った第三者機関がチェックしたり、市民参画でどうしたらよいかを考えることが、これからの住民自治で大事なことである。いずれにしても基本計画作成の中で、検討していただきたい問題だと思う。

副部会長

他にあるか。

無ければ今の意見を踏まえた中で、まとめていただきたいと思う。

福祉部会としては、本日のご意見を踏まえて審議会に上げていくので、よろしく願いします。